



The Project for Increasing Farmers Households' Incomes
through Strengthening Domestic Rice Production in Timor-Leste



乾期作の収穫が継続および次期雨期作の準備が始まる!

成果 1: 栽培技術



< マリアナIのFFSモデル農家圃場 >

1. 乾期作の収量調査

ブルトとマリアナIにおけるFarmers Field School (FFS)の6サイト中5サイトにおいて収量調査を行った。マリアナIでの調査より、2デモ圃場の平均単収は約5.0トン/ha、そして60名のFFS参加農家の平均単収は約4.2トン/haという結果が得られた。これらの単収は、昨年の乾期作の数値よりもはるかに高い数値である。

2. 収穫セレモニー

10月7日にマリアナIにおいて収穫イベントを行い、66名のFFS参加農家やその他21名の関係者が参加した。イベントではFFS参加農家が、この乾期作での彼ら自身の成功例や成果を共有した。

3. 次期雨期作に向けた準備(バイオ炭製造)

オーストラリアの支援を受け、バイオ炭の調査を既に行っているAi-comプロジェクトとの協働で、マリアナIにおいて、籾殻を活用したバイオ炭を製造した。

成果 2: 灌漑管理



< タスクグループのキックオフ会合 >

1. タスクグループのキックオフ会合

タスクグループのキックオフ会合が10月12日と13日に開催され、農業水産省の灌漑・水管理局長をはじめ9名全てのメンバーが出席した。会合では、タスクグループメンバーが、灌漑水管理に関わる活動に主体的に取り組んでいくことが確認された。

2. 区画用地図作成

各圃場(筆)と耕作者を紐づける区画用地図の作成を、試行的にブルト灌漑地域で2週間行った。この試行により、灌漑地域全体の区画用地図を完成させるためには、多大な時間とコストを要することが判明したため、現時点では、区画用地図を作成することを取り止める。

3. 水利費徴収

ブルトにおいて、支線水路管理人(Kabu-wee)により雨期作に対する水利費が徴収された。その結果、対象全625農家中277農家(44.3%)から、籾(計2,770 kg)および現金(\$ 55)が徴収された。

成果 3: 物流と販売 (民間)



< CAKUBによる精米作業 >

1. チャクブ農家組合メンバーシップ(2022年)

チャクブ農家組合が10月27日にグループリーダー会議を開催することを支援した。会議では、コメ栽培技術向上におけるグループリーダーの役割、化学肥料配布、刈払い機や脱穀機の使用に関し話し合われた。

2. チャクブ農家組合の精米

チャクブ農家組合が使用している精米機は、長年の使用による経年劣化により精米能力が低下してきているため、プロジェクトは新たな精米機支援を検討した。また、精米機に負担を掛け過ぎないように低速で使用するこことや定期的なメンテナンスを行うことを指導した。

3. アセルダ社のメンバーシップ(2022年)

アセルダ社がメンバーシッププログラムのワークショップを行うことを引き続き支援した。これらのワークショップを通じて、計16グループから成る125名の農家(ブルト灌漑地域: 13グループから成る60農家、ベニラレ地域: 3グループから成る65農家)がアセルダ社のメンバーシッププログラムに登録した。ベニラレ地域はブルト灌漑地域外ではあるが、同地域の農家はコメ増産およびアセルダ社への販売拡大に意欲を持っている。

成果 4: 買取と配布 (政府)



< コメ品質管理の最終報告会 >

1. コメ品質管理に関する最終報告会

コメ品質管理の西野短期専門家による、カウンターパートや関係機関(National Council for Food Security and Nutrition, Food Safety and Economic Inspection Authority, World Food Program, and National University of Timor-Leste)に対するコメ品質管理に関する報告会が開催され、参加者から様々な意見が出され、議論が活発に行われた。当地でのコメ品質を強化していくため、関係機関間の調整を今後も行っていく予定である。

2. コメタスクフォース

コメタスクフォースの理解を深めてもらうため、経済調整省および農業水産省のチーフアドバイザーに対して、Joint Dispatchの詳細を説明した。現在、関係大臣がなるべく早くJoint Dispatchにサインするように働きかけている。